

最優秀賞

(中央大会法務省人権擁護局長賞)

知ること、許すことの大切さ

春日部市立大増中学校

三年 若林真央

二〇二一年三月、日本テレビの「スツキリ」という番組でアイヌ民族を傷つける表現が放映され、それが差別に値すると報道された。私は、問題となった映像を実際に見てみた。ある芸人がアイヌの番組を紹介したあと、宣伝のために「アイヌ」に「あ、犬！」と掛けたネタを披露していた。それを見た時、正直批判の声が上がるほど悪いようには思えず、何が不適切なのか疑問を抱いた。むしろ、この程度の謎かけなら私も冗談で言ってしまうそうだし、芸人の人も悪気がなさそうで差別と言われていることに對し気の毒にすら思えた。後日、問題となった番組内で、差別への認識や確認が不足していたことを謝罪していた。しかし、私はそれを聞いてもなお、事の重大さにピンと来なかった。はたして、謝罪する必要があるのかさえ思った。

そこで、私は疑問を解消すべく、アイヌについてネットで検索してみた。法務省のサイトも調べてはみたが、深く内容を理解できなかった。母にも聞いてみたが、アイヌ民族が差別を受け大変な思いをしてきたのは知っているが、詳細はわからないとのことだった。母と相談し、ウポポイという施設に問い

合わせてみることにした。一連の報道を見て、芸人の人が悪気なく差別するつもりがなくやったネタに對して、なぜ差別と追及されてしまうのか、「あ、犬！」のどこがそんなに悪いのかと失礼を承知で率直な思いをぶつけてみた。すると、ウポポイの人は私を咎めることも否定することもなく、親切に説明してくれた。アイヌ人は元々北海道に先住していた民族で、自然と共生し文化を発展させてきた。しかし、和人（日本人）により土地を奪われ、同化政策を施され、アイヌ語の使用を禁じられ日本語を使うことを強制されるようになった。そして、独自の文化や生活を禁止され、結婚や就職などにおいても偏見による差別や迫害を受けてきたこと。なかでも問題になった「アイヌ」を「あ、犬！」と掛けた表現は、アイヌ民族が長らく受けてきた差別的、侮辱的表現であり、人間よりも下等動物とみなされている犬に例えられることよって大変苦しめられてきたことを教えてくれた。私はそれを聞いて、言いようのない恥ずかしさが込み上げてきた。と同時に、申し訳ない気持ちで胸が一杯になった。ウポポイの人に謝罪の気持ちを伝えると、

「これをきっかけに、アイヌについて学んだり考えるようになってくれたらうれしいです。」と言われた。電話を切ると、私は自分の無知さと勉強不足を痛感した。知らなかったとは言え、私も芸人の人と同罪であり、無知は人を傷つける凶器にもなり得るのだと実感した。私は、アイヌに関する文献を探して読んでみた。すると、過去にも失言や放言などアイヌ差別に関する事件が幾つもあったことを知った。なかでも、今回問題となった日本テレビが一九九四年にもアイヌの伝統文化の尊厳を傷つけていたこと、そして過去の教訓が全く活かされてこなかった事実にも衝撃を覚えた。実際に自分で調べてみて、改めて問題の映像を見直してみた。初めて見るのと背景を知ってから見るのでは、随分印象が異なった。

アイヌの人々が受けてきた差別について考えたり、アイヌの人の気持ちになって映像を見ると到底笑えるものではなく、何が不適切なのか疑問を抱いた自分を恥じた。電話をする前の私は、無知のあまり物事の本質を捉えられていなかったのだ。

今回の件で、私は気づかされたことがある。一つは、知ることの大切さである。無知で無関心であることは、自分でも気づかぬうちに誰かを傷つけてしまう恐れがある。また、歴史を知るとは相手への尊重に繋がり、結果差別を減らしていくことに繋がるのではないかとも感じた。二つめは、許すことの大切さである。ウポポイの人は、私を非難することなく許容してくれた。他にも、「学ぶきっかけにしてほしい。」とアイヌの人が口にして見ても見た。相手を責め、憤るのは簡単だ。しかし、それでは何も生まれない。許容は、互いに関係を構築していくうえで重要であると感じた。日本は単一民族国家と言われているが、実際は様々な人種が住んでいる。アイヌには、アイヌ語で「人間」という意味があるそうだ。そう、人は皆同じ人間である。決して、人が人を差別することがあつてはならない。歴史は覆せないが、過去を教訓に未来を変えていくことはできる。知ることを怠らず許す心を持ち続けられ、差別を減らすことに繋がるのではないだろうか。アイヌの人のなかには、差別を恐れ自分達のルーツを隠して生きている人もいる。アイヌの人が堂々と生きていける社会になるよう、アイヌの人に限らずどの人種も差別されない社会であるために、二つの気づきを活かしていきたい。